

池内紀 × 川本三郎

にっぽん そぞろ歩き

第2回 あの町この町日が暮れる……



前回は東京にまつわる話でしたが、今回は東京を出て旅の話となりました。無類の旅好きのお二人は、とにかく全国各地に出没されています。知らない町を楽しむお二人の極意とは？

陸派？ 島派？

川本 旅というと、私なんかはビジネスホテルに泊まって、路地裏を歩いて、そのへんにある食堂や居酒屋で一杯といった感じですが、池内さんはどんな宿に泊まりますか。

池内 北陸の有名な温泉宿で、何と言ったかな……文壇のお歴々が、よく歌仙を巻いていたといって出てくる宿。そこへ仕事で一回だけ泊まったんです。ほんの一回だけですが、そこのおじさんがたまたまぼくの本を読みたいというので送って以来、宿で使っているお米やお酒やらのセットをずーっと律儀に送ってください。「いずれ、どうぞおいでください」とおっしゃいますが、一晚ウン万円の宿は性に合いませんね。

池内 ぼくは、瀬戸内海とかの島が好きなんです。ついでこの間は八丈島に行ってきました。以前、二泊三日で行って気に入ったものですから、今度は四泊五日にしています。

川本 飛行機ですか？ 船ですか？

池内 飛行機です。船だと夜に出て、朝着くから、外がなんにも見えない。

川本 それは嫌ですね。夜行バスや夜行列車があまり好きではないのも、それです。

池内 ぼーっと見ている窓の先に、景色が移って行くのがいいんですね。

川本 旅先で、お仕事はされるんですか？

池内 貧乏性だから、一応持っただけですが、三つくらい持つて行って、四日間できたのは一つでした。以前、たまたま泊まり合わせた島の外れの小さなホテルは、四十代の、元料理人だった人がやっているから、食事が本当においしかった。特別ぜいたくなものは出てこないけど、アシタバのてんぷらとか、トビウオの刺身とか、地元で取れるものを上手に料理してくれました。ただ、奥さんが島を出てしまっただけで、一人でやっているのがちょっとかわいそう。

川本 以前、澁澤龍彦夫人を中心に、「龍」がつく旅館に行ったことがありますよね。池内さんと。楽しい旅行だったんですが、宿は一泊四、五万円。池内さんと二人で「困ったね、次回からはもう遠慮しよう」なんて話になって。

池内 川本さんが部屋にあるビールを見て「これ、高いですよ。いまから外で買ってこようか？」と言っから、いまさらジタバタしたってしょうがない、もうあきらめよう。

川本 情けないこと、やっていました(笑)。

池内 あのときは、朝、すつと帰ってしまいましたね。川本 財布の中身が心配になりましたから。前回の対談でも意見が一致しましたが、われわれの旅では、テレビに出てくるような一流旅館に泊まらない。食べ切れないほどの豪華な食事はいらさないし、あいさつに来た女将に、食べている間中、ずっとついていられたりしても、ね。

池内 困りますね。この間、川本さんの『ひとり居の記』を読んだんですけど、川本さんの旅はだいたい鉄道に乗った「陸」のものが多くないですか？

川本 そうですね。